

第 94 号



人と人

発行

東村山市国際友好協会

編集：広報委員会

東村山市本町 1 - 2 - 3

東村山市役所内

☎ 393-5111 内線2558

http://www.h-ifa.com/

新年度へ向けて 会長挨拶



会長 大野 茂

穏やかな天候に恵まれ2011年を迎え早や二ヶ月が過ぎました。皆様方には、充実した日々をお過ごしのことと思います。

インディペンデンス市との交流も平穩に推移し、33年目になります。これも両市民のボランティア活動と両市行政の保証と協力、そして関係諸団体のご理解、ご支援の賜物と心から感謝しております。

一言で33年とはいえ簡単なことではありませんでした。この際原点に戻り検証してみたいと思います。1964年の市政施行にともない、平和都市宣言を掲げ、10年後には具現化を目標としていた折、1974年一市民から姉妹都市交流の提案があり、候補都市としてイ市が紹介されました。二年間にわたる折衝の後合意に至り、1978年1月26日イ市に於いて姉妹都市提携の調印が行われ、正式な交流が始まりました。盟約書には「広く各分野の交流を通じて、両都市市民の友情と理解を深め世界の平和と繁栄に寄与するため」とあります。この内容を具体的に推進する母体組織が必要なため、市内の主な団体に呼びかけ、1977年末に当協会が設立されました。

最初の交流は、1979年当市の青年15名からなるイ市親善訪問団の派遣でした。本年も29回目の派遣生を募集中です。イ市からの学生受入れも1981年から始まり、今年も7月13日からの受入れのためのホストファミリー募集、プログラム検討などに着手しております。成人の交流も5年おきに実施されています。青年、成人の相互交流は両市民が各家庭に宿泊し、異文化体験を通じ、友情と理解を深め、国際的視野を拡大し世界平和に貢献するための一助となれば幸いです。特に双方の若人は海外での勉学、社会人として活躍している様です。

この活動をさらに維持発展させるため双方それぞれ努力を重ねております。近年に入り毎年イ市役員との合同会議を開催し、開放的雰囲気で見聞交換をし、納得した交流を続けるため努力しております。世界は激動の時代に入っておりますが基本は市民同士の友情と理解が世界平和に貢献するものと確信いたします。多数の皆様のご参加を願うものです。

賛助会員様へ

東村山市国際友好協会は1978年の設立以来多くの会員・賛助会員様に支えられながら姉妹都市交流を通じて学生の相互派遣やそれにともなうの会員交流活動が展開され今日に至っております。

この度、その運営にあたり諸々の見直しをし、賛助会員様に対する感謝の意をなお一層あらわすべく新たな取り組みを予定しています。

その内容は当協会の広報紙やホームページ、また毎年開催する総会資料などを通して賛助会員名の記載・プロフィール紹介・事業PRなどを掲載させて頂き、これにより賛助会員様への謝意の一端を表わす事にしたと思います。

今後順次、個人の賛助会員様および事業を営む賛助会員様に對して、ご迷惑のかららない細心の注意を払った上で当協会からの取材をさせて頂いたさきたく考えております。その節はよろしくお願い申し上げます。

英会話ニュース

1月28日(金) 底冷えのする夜、ゴードン、バネッサ両講師を囲み、大野会長、鈴木理事、英会話委員出席のもと新春懇親会を開催しました。今年で三回目を迎えますがいつもとは雰囲気を変えて家庭懐石の店を選んでみました。

講師は初めての体験で大変喜んで下さり会話も英語、日本語ミックスで飛び交い楽しいひと時でした。



両講師を囲んで

講師との間で食材が話題になりスイカはもろろんトマトもイギリス、オーストラリアではフルーツとして売られているそうです。日本のレンコンは食感のよさで大好きという事でした。お口に合うか心配していた料理も見ても美しく心のこもった伝統的盛り付けでおいしく食べて頂き飲み物も進みアツと言う間の2時間でした。日本の文化らしく一本じめで閉会し心身ともにほんわかかな気持ちで各々家路に向かいました。(英会話委員会)

総会のお知らせ

平成23年度総会は5月21日(土)午後二時より市民センター二階において開催されます。本年は役員改選の年です。選考委員会による新しい役員改選議案が上程され総会で決定されます。また総会終了後は会員交流委員会の準備による懇親会を予定しておりますので多数のご参加をお待ちしております。

年会費の納入について

新年度の年会費は7月に会員拡充委員が広報紙を皆様にお届けの際、頂きに伺いますのでよろしくお願い致します。

役員・委員研修旅行

今年度の役員・委員研修は寒さをものともせず北の方へ計画しました。行き先はイ市からの訪問学生達が必ず訪れる日光です。世界遺産になっている二社一寺(東照宮、一荒山神社、輪王寺)と華嚴の滝などを案内人の説明を受けながら、歴史や文化をより深く学んできたと思います。日程は3月5・6日です。

インディペンデンス市親善訪問派遣団員募集

姉妹都市インディペンデンス市を訪問する団員及び引率者を募集します。

日程：7月27日(水)～8月11日(木)
内容：親善交流、ホームステイほか
対象：市内在住・在勤・在学又は国際友好協会会員の同居の家族で、次に該当するかた
○団員＝中学3年生～22歳(申込み時)のかた
○引率者＝25歳～60歳(申込み時)で、英語に通じ、団体引率に適した心身共に健康なかた
定員：団員10名、引率者1名
費用：約20万円(往復航空運賃ほか)
※引率者には、費用の約半額を国際友好協会が補助します。
申込書配布：2月1日(火)から生活文化課(本庁舎1階)で配布
申込み期間：2月1日～3月14日(消印有効)までに、必要事項を記入の上、直接又は郵送で生活文化課(市役所本庁舎1階)へ
選考日：3月19日(土)午後3時から
選考方法：面接及び簡単な英会話
★場所等詳細は、募集要項(申込書に添付)をご覧ください。

事前説明会

日時：3月4日(金)午後7時30分から
場所：市民センター第3会議室
※申込み不要、直接会場へ

問い合わせ：生活文化課(電話393-5111 内線2558)(派遣委員会)

ホストファミリー募集

姉妹都市インディペンデンス市から来市する訪問団をお世話していただけるホストファミリー及びサポーター(各種行事のお手伝いや、短時間のあいだ家庭で訪問団員をお世話できるかた等)を募集します。ぜひご応募ください。

訪問団：引率者 1名(成人男性) 学生 10名
日程：7月13日(水)～27日(木)
対象：次の条件①・②を満たすかた
①市内在住で、期間中、訪問団員に1部屋提供できる
②歓迎行事などに家族のどなたかが参加ができる
※金銭の補助はありません。
申込書配布：2月1日(火)から生活文化課(市役所本庁舎1階)で配布
申込み期間：2月1日～4月8日(消印有効)までに申込書に必要事項を記入の上、直接又は郵送で生活文化課(市役所本庁舎1階)へ
★詳細は、下記の事前説明会でご案内します。

事前説明会

日時：3月12日(土)午後7時
場所：市民センター第1会議室
申込み：3月10日(木)までに、電話で生活文化課へ

問い合わせ：生活文化課(電話393-5111 内線2558)

“昨年のホストファミリーの声”
○楽しかった。ぜひまたやってみたい。
○サポート制度ができ、安心だった。
○英語の得手不得手より積極さだと実感した。
お気軽に説明会にご参加ください。(学生受入委員会)

英会話講座前期受講生募集

日時：4月13日(水)～9月14日(水)
水曜日全20回
Aクラス17:30～18:25
Bクラス18:30～19:25
Cクラス19:30～20:25
Dクラス20:30～21:25

費用：受講料 13,000円
テキスト 2,400円
協会年会費 2,000円(学生1,000円)

会場：東村山市市民センター

注：受講資格は、市内在住または在勤・在学(高校生以上)の方に限ります。詳しくは3月1日付けの『市報』をご覧ください。

問い合わせ：生活文化課
(電話393-5111 内線2558)

今春4月より小学5・6年生は英語が必修科目となります。皆さん春風と共に新しいことにチャレンジしてみても如何でしょうか。お待ちしております。

(英会話委員会)

すが、申込みは締め切りしました。とさせて頂きます。

(会員交流委員会)

あの人は今 広がる世界が 待っていた

時は過ぎてても…

第1回派遣生 宮澤 美和子
今から何年前になるのでしょうか。高校一年生の夏にイ市へ訪れる一団に参加させて頂きました。それからのはるかかな時間が過ぎてしまいました。現在私は、東村山ふるさと歴史館という東村山市の博物館で働いています。

毎年イ市からの学生の方たちの訪問の話題などは、比較的早く知ることのできる職場でもあります。特に昨年の夏は、イ市の高校生をふるさと歴史館で迎えさせて頂きました。私ともう一人の職員とともに着物を着て対応し、東村山にのこる古い道具の説明や機織の体験などを経験させて頂きました。この時は、自分自身が訪問した時に案内された博物館や資料館などの思い出が頭に浮かび、感慨ひとしおでした。私が訪れた頃は、イ市の中心あたりにはまだ古い建物が残り、西部の開拓時代を彷彿とさせる風景がありました。イ市から来る学生の方たちは、古い日本の姿を東村山でどのように感じていったのでしょうか。ふるさと歴史館では、年に三回程度の企画展、特別展を開催

していますが、歴史ある友好協会と友好都市であるイ市についての展示企画を考えたいと職員間でよく話題にしています。友好協会の方々の協力でこの企画が実現できれば、私としてもうれしかぎりです。

初の海外体験から香港市民へ

第16回派遣生 金田 敏子
私は1994年、高校一年生の時にイ市に交換交流をさせて頂きました。小学生の頃から海外に興味を持ち始め、中学に入ると自分でペンパルを探し辞書を片手によく手紙を書いていました。中三の頃、同市からの交換留学生が来日しているとの話を聞き直接会いに行きました。そこで募集の事を知り応募、初の海外体験が実現しました。

その後九年間、長男を妊娠するまで毎年海外に行きましたが、二男・三男と出産し当分海外へは行けないと諦めかけていた昨年の夏、主人の香港赴任の話が飛び込んできました。私たちは二つ返事で承諾、現在は家族五人香港で暮らしています。

香港では広東語と英語が日常語です。子どもたちは学校で英語も広東語も学んでいるので、

すぐに話せるようになりそうです。私は英語が好きなので問題ないのですが、街市（がいし）と呼ばれるこちらの市場では広東語が話せないとおまけもして貰えませんか。香港生活をもっと楽しむためにも広東語の習得に挑戦したいと思っています。

(旧姓・森久保)

いつまでも英語とともに

第18回派遣生 折笠 聡樹
私がイ市でホームステイを体験したのは今から15年前、高校二年生の時です。現在31歳で歯科医をしています。歯科医というと英会話は重要ではないかと思われ方が多いのではないのでしょうか？しかし歯科医になって七年目ですが、現在英会話の重要性を感じています。歯科の論文の多くは英語で書かれ、講演会の多くの先生は海外で英語による講演をされています。英語しか喋れない患者さん多いらしいです。これから国際社会を生きていく上で、歯科でも英会話は必須になっていくと感じています。私も昨年から英語を勉強し始めました。将来的に英語で治療の説明ができ、翻訳なしで論文を読み、講演を

聞けるようになるのが目標です。今思えば生きた英会話を体験したイ市訪問は、私にとってかけがえのないものになっていきます。集団生活することによって協調性が身に付き、日本との考え方・生活習慣の相違を肌で感じる事ができました。当時お世話になったウエイツ家とは現在も交流があり、最近では結婚報告をした際手紙と贈り物を頂き大変嬉しく思いました。イ市との交流は市にとって大いに有益であり、大きな財産になっていると感じます。私も参加できたことを誇りに思います。

10年目の同期会

第21回派遣生 櫻井 紀美
2000年の夏、第21回学生派遣団はサンフランシスコ経由でイ市へと旅立ち、約三週間のホームステイを経験しました。あれから10年がたち、高校一年生であった私ももう社会人四年目。皆もアラサー年代となり、それぞれの人生を歩み、それぞれの節目（仕事・結婚・出産子育て・転居など）を迎え過してしまっています。今回の集まりも結婚報告の一つから生まれました。二三人で会うことはあっても引率の桜林青子さん、派遣生10人に連絡を取り、10年目の同窓会を開くととは…。呼びかけをしてくれた仲間感謝です。年末の忙しい中、青子さんも駆けつけ、仕事での欠席者以外八人も集まりました。10年の時を経て仲間だと実感出来るほど、昔の事・今の事とおしゃべりに花が咲きました。

現在東村山市に住んでいるのは二人。イ市の家と連絡を取り

合っているのも数人。それでも絆は固く、素敵な仲間です。まだまだ忙しく過ごしてはいてもこれを機にまた11人でイ市を訪れたいと話が弾みました。

桜林・岡村・和氣・荻山・塚原・佐藤（旧姓下田）・秋谷（旧姓小池）・田口・中川・小寫・そして櫻井。大人になってもあの頃に帰れる私たちは仲間です。そしてそんな仲間たちに出会えたことを感謝します。

創立50周年記念式典



市立回田小学校の創立50周年記念式典及び祝賀会が昨年の11月27日（土）に開催されました。同校はイ市のグレンデール小学校と姉妹校の関係にあり、国際友好協会とも一緒に活動しております。

当日、大野茂会長・関梅四郎前会長・岩瀬由明副会長・佐藤公子副会長が招待され、参列されました。

姉妹校友の会の活動

私たち「姉妹校友の会」は回田小学校の児童の保護者のボランティアサークルです（平成22年度は12名在籍）。主な活動は訪問団が来校した時に学校行事のセレモニー・授業体験・給食交流などへ一緒に参加しお手伝

コーヒーブレイク

イ市との姉妹都市提携以来、33年目を迎えています。この間の派遣生の数は今年（2011年）を含めると300人を超えます。しかし遠方の大学へ進学したり、市外に勤めたり、結婚して東村山から離れてしまう方が大勢います。勉強や仕事に追われているのかも知れませんが、会員として残って下さる方ばかりではありません。

物見遊山の観光旅行ではなく、公式訪問団の一員として渡米し、二～三週間を公式行事に参加し、ホームステイを体験されることは若い方たちに大変な刺激を与えていることと思います。日本とは異なる文化や習慣を知ることによって家族の在り方、宗教観、食生活、学生生活の過ごし方、語学への取り組み方、国際交流についてなど彼らの人生観になんらかの影響を与えていることでしょう。そうした蓄積を是非協会の活動に活かし次の世代へつなげて、年会費の納入、広報紙のお届け、委員会活動や協会行事へ参加頂くなどをして現会員とのつながりをもっと太くしたいものです。

派遣生たちの環境が変わっても連絡を取り合える「受皿」を協会の組織として作る必要があるのではないのでしょうか。

(H・K)

マリンバ北星会 歳末コンサート

恒例の歳末マリンバコンサートが昨年12月11日（土）市立富士見公民館で開催されました。当協会から後援団体として大野茂会長、岩瀬由明副会長が出席されました。今回の開催は12月10日（土）の予定です。



編集後記

今号は「あの人は今」の特集を組みました。中には新鮮な提案もあり、若い人を含めてこれからの活動が広がる良い機会になればいいですね。

花みずき コーナー

【The 33rd Anniversary Celebration !】

ラーナ・ホワイトさんとジェラルド・ハンコック氏がインディペンデンス市から新年の便りを寄せてくださいました。

1月29日（土）、年始めの行事として今年も姉妹都市記念祝賀パーティー（The 33rd Anniversary Celebration）が行われました。日本文化のデコレーションが飾られた会場に新旧のメンバーが集い、楽しい雰囲気の中で懇親を深められた様子が写真からもうかがわれます。

